

青山学院女子短大 ○阿部 幸子
首藤 晋子

1. 不織布の芯地としての用途はますます増加しつつあるが、不織布の汚染性・耐洗濯性は欠点の一つとして注目されている。これは不織布の構造・バインダー等の性質によるものと考えられるが、今研究では市販不織種3種を主として乾式汚染法により汚染し、汚染時の諸条件と汚染性および洗浄性を木綿織物と比較検討した。

2. 汚れ成分はカーボンブラックのみとし、四塩化炭素を分散媒とする湿式汚染および、ロータリー式乾式汚染機を用いた乾式汚染の2法をおこなった。後者では、カーボンブラックの量・汚染機の回転時間・試料の湿度を変化させて汚染性を検討した。洗浄試験は洗剤を脂肪酸セッケン・アルキルベンゼンスルホン酸ソーダ・ポリオキシエチレンフェノールエーテルの3種とし、ラウンダーオメーターにより40°C・20分間の洗浄をおこなった。

3. (1) 湿式汚染では不織布は著しい汚染性を示すが、乾式汚染では、乾燥状態で汚染した不織布は綿布と大差なく、カーボン量少なく、汚れとの接触時間が少ない時には木綿より汚れが少ない。

(2) 湿式汚染による不織布は3種の洗浄により全く洗浄性が認められないが、乾式汚染不織布は綿布に比し洗浄性は低い、脂肪酸セッケン・ポリオキシエチレンフェノールエーテルによる洗浄性が認められた。